

会報委員会より

投稿俳句の発表

俳句の投稿をいただきました会員の皆様、
ありがとうございます。投稿された俳句は、
投稿者をわからないようにして、鈴木良戈先
生に厳正な審査を行っていただきました。
今回投稿いただけなかった方も、次回よろ
しくお願い致します。

俳句 季題 「残暑」

選句 鈴木良戈

◎特選 池永 あけみさん

(池永会員奥様)

せみのこえふととぎれての 残暑かな

ミーンミーン、ジイジイと朝から喧しく
鳴いて暑苦しい残暑の陽気がなおさらつ
る思いである。その鳴声があつと途切れる
事がある。そのような時には季節的には初
秋であっても、暑さを厳しく感じてしまう。

○秀逸 池永 あけみさん

潮騒の音高なりし 残暑なり

引く潮、返す潮の音が真夏の間に聞き慣
れた音とは強弱も違うようだ。波音の高さ
も高いようだ。やはり立秋を過ぎてからの
自然の循環は正しく巡って来る。気温もま
だ下がらない。

○秀逸 佐野 一信 会員

部活の子 残暑の匂ひ 持て帰る

多分運動に関係した部活であろう。朝夕
は涼しさを感じるが、部活で運動して汗ま
みれになっての帰りであろう。ただの汗ま
みれと違って気分の良い運動後の澀刺とし
た子の元気な匂ひである。

○秀逸 伊藤健一 会員

公園に 手押し車の ある残暑

この車は多分老人の手押し車であろう。
それとも乳幼児を乗せた車か。いづれにし
ても朝夕の涼しい時刻の公園であろう。何
となく公園の賑やかさが見えるようである。

○秀逸 岡本昌三 会員

散歩道 残りの暑さ 肌にしみ

朝晩はさすがに秋らしく涼しいが、しか
し日中は夏と変わりなく暑い。季節は秋で
も、現実はまだ暑さが残っている。

○秀逸 大鳥居 玲子さん

白寿なる 老いに一憂 残暑かな

九十九歳の老人にも一つだけ心配事があ
る。この厳しい残暑の中ではそれがなおさ
らである。どうしても心にかかる事である。

投稿いただいたすべての俳句

佐野一信 会員

土間研る 音の煮え立つ 残暑かな

ときめきも 虚しさも棲み 秋暑し

眼光の 充ちて秋暑の 閻魔堂

秋暑し 過労に負ける シュレッダー

中田邦彦 会員

手をかざし 見上げて残暑 ひと睨み

田島文子 さん

ニコライの影長々と 残暑かなし

秋暑し 刀自のため息 一つ洩れ

小名木川の 匂ひ替はりて 残暑かな

大鳥居玲子 さん

秋暑し 庭這ふホース 犬じゃれて

残暑かな 庭に季の花 咲きにけり

秋暑し 心体冷やす 水を飲む

日本列島 真っ赤かな 猛残暑

伊藤健一 会員

堰音に 白き飛沫の 残暑かな

無人駅 抜けて残暑の 信濃富士

池永あけみ さん

自動車の 行く道かげろう 残暑みち

はや残暑 ひとえ衣に 日かげ風

残暑なの いつまで残暑か 流れる汗かな

子らの声 静かになりて 残暑来ぬ

夕日みて 明日の残暑を うらないて

篠田秀樹 会員

早朝に 残暑の終わりを 告げる風

昼はセミ 夜は鈴虫 残暑かな

水谷 彬 会員

タオル手に 出羽の山にも 残暑あり

事務局 天尾 さん

軒下を渡る湿(しと)り気 残暑行く

皆様、ご投稿ありがとうございました。

